

## 小学校高学年における古典に「親しむ態度」を育む古典指導～随筆作品を通して～

新潟市立新津第一小学校 教諭 山際 華穂（平成29年度）

### 主張

本研究は、国語科の小学校高学年における「伝統的な言語文化に関する事項」での古典教材の指導について、「評価読み」と「翻作法」を取り入れた授業の有効性を検証したものである。これまでの古典指導の課題や実際に教員が感じている悩み等から、児童が古典の世界に親しみをもち、抵抗感を感じずに学習を進めたり、物語文や説明文の学習と同じように、「読むこと」の力も高めたりすることのできる指導法を明確にする必要があると考えた。

学習指導要領の伝統的な言語文化に関する事項では「(2) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること」が示されている。読む目的を明確にし、古典作品から筆者の感じ方に触れるために作品を「評価読み」することと、その読みを自分の書きに生かす「翻作法」がそれにつながっていくはずである。

### 主題設定の理由

2008年（平成20年）の国語科学習指導要領で「伝統的な言語文化に関する事項」が示され、高学年では古文・漢文が教材として取り上げられることが多くなった。それには、以下の5点の意義があるからであると考ええる。

- ① 昔のものの見方や感じ方に触れることで、自己形成につなげる。
- ② 古典を読み、歴史を受け継いでいくという日本文化の継承につながる。
- ③ 言語主体として将来を見据えた言語能力や言語意識を身に付ける。
- ④ 古文と現代語を比べて読み、言語の変化やその違いに気付いたり考えたりすることを通して、一つ一つの言葉の重みやその言葉のもつ効果を知り、日本語の理解力、表現力が一層深みのあるものになる。
- ⑤ 読書の幅を広げる。

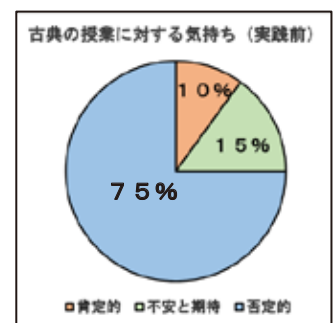
しかし、以下のような課題が生じたと考える。

- ① 教師主導型の学習
- ② 音読や暗唱中心の授業
- ③ 古典指導の意義が不明確
- ④ 意義が明確になっていないことで、指導方法が不明確

そこで、古典指導の意義を明確にし、古典教材から身に付けることのできる能力や具体的な指導方法を明確にする必要がある。

さらに、児童の実態を調査するため、アンケートを実施した。古典の授業前に実施したアンケートでは、「古典に対する正直な気持ちを教えてください。」という項目に対して、【分からない、難しそう、覚えるのが大変そう、想像できない】と否定的な回答だった児童は75%だった。

そこで、本研究では、国語科の古文教材を使用した古典指導における指導方法として後述する「評価読み」と「翻作法」が、古典に「親しむ態度」の育成につながっていけるのか、実践・分析を通して指導への示唆を得ていく。



### 研究仮説

小学校高学年の古典指導で、「評価読み」と「翻作法」を取り入れ、目的意識をもった読みを実践すれば、児童の古典に「親しむ態度」の育成につながるだろう。

## 2 研究内容と方法

### (1) 研究内容

本研究で育成する「古典に親しむ態度」を以下のように設定する。

- A「今も昔も感じ方が似ている部分があるのではないかと考えられる。
- B「自分自身が古文の筆者となって書き換えることができるのだ」と考えられる。
- C「筆者の書きぶりの工夫が、今の自分に生かせるのではないだろうか」と考えられる。

### (2) 研究方法

本研究で古典に「親しむ態度」の育成のために実践するのは、「評価読み」と「翻作法」である。

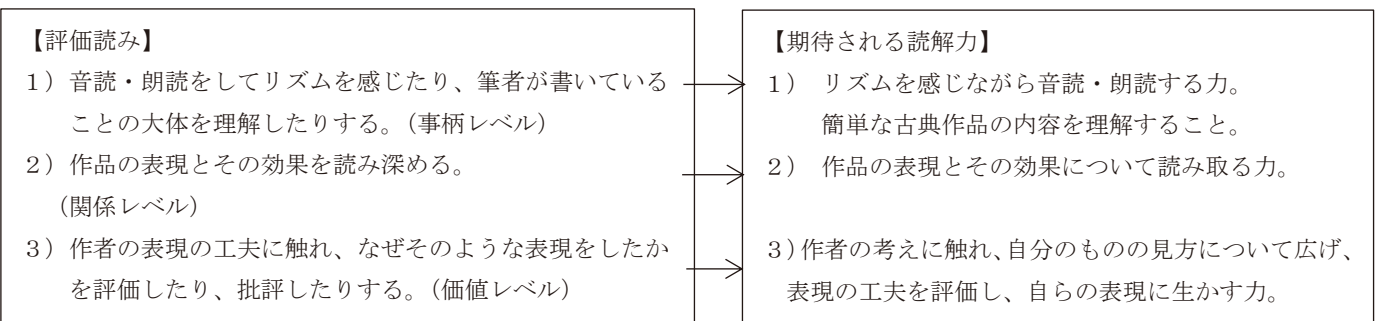
## ① 評価読み

大西道雄は『学習の手引きによる国語科授業の改善』において、読みを深めるとは「事柄レベル」から「関係レベル」「価値レベル」と進んでいくことだと定義付け、以下のように説明している。

事柄レベルというのは文章内容を構成する、事柄・素材を捉える段階。価値レベルとは、書かれている事柄と事柄とのかかわりのなかで生ずる意味をつかむ段階。価値レベルというのは、関係の中から捉えられる意味を支えているもの、書き手の意見や感じ方、価値観を把握する段階。

ここにあるレベルを古典指導に当てはめていくと  
 事柄レベル…音読・暗唱・文法  
 関係レベル…筆者の文章構成や表現方法  
 価値レベル…筆者のものの見方や伝えたいこと、考えを捉えること  
 と言える。

また、森田義信は「評価読み」を提案している。評価読みの第一層は、「何を書いているか」の「何を」を捉える観点。第二層は、どのような言語表現をしているか、その仕組みや工夫を捉える観点。第三層は「事柄・内容」相互の関係を捉える観点。これは、「筆者が工夫し、創造したもの」を内容から捉えるということである。これらをまとめると、

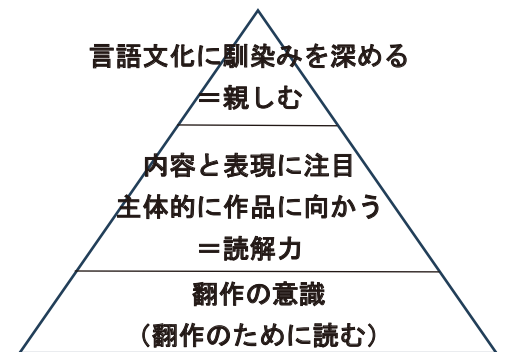


## ② 翻作法

①で挙げた、「評価読み」の3) とつながる実践として翻作法を提案する。首藤久義・卯月啓子の『翻作法で楽しい国語』（2004年）では以下のように述べられている。

「翻作」という語は、「翻訳」の「翻」と「創作」の「作」を組み合わせた造語です。私がいう「翻作」とは、まったくオリジナルな「創作」ではなくて、何らかの作品をもとにして表現することです。

翻作法では、翻作すること自体が表現の学習になりますが、翻作するために原作を繰り返し読むうちに内容理解が、より確かなものになります。そういう意味で、これは、表現活動を通して、精読する方法になります。そうすることを通して、原作にした作品の内容や形式になじみが深まります。



この2つを指導に取り入れ、古典に親しむ態度の育成を目指す。そして、それによる児童の変容を授業の様相、アンケート等の内容から検証する。

## 3 実践の概要

### (1) 5年 枕草子第一段「春はあけぼの」

本時では、枕草子第一段を読み、そこから作者のものの見方や、清少納言の表現の工夫について学習した。とても有名なこの第一段は、清少納言の感じている各季節の良さや好ましくない点について語られている。また、各季節の良さについても、誰もが思うよさではなく、「そこに目を付けるのか」という清少納言の目の付け所の鋭さやその意外性のある気付きを取り入れることの効果を児童に気付かせ、翻作法の活動につなげた。

### ア 指導の実際

評価読み：清少納言の季節のよさの感じ方と、その書きぶりの効果について

教科書では、第一段の四季がそれぞれの季節の時期に分けて扱われている。しかし、表現の工夫については、各季節を分けるのではなく、作品（第一段）をまとめて読むことで、筆者の書きぶりや作品に込められている表現の工夫に気付くことができる。そのため、春夏、秋冬の2つに分け、授業を実施した。

授業実践では、以下のような児童の発言が見られた。

T	なぜ、春の定番「桜」を入れなかったのかな？
C	確かに！
C	清少納言は、文章を書くのが上手な人だったはず。そんな人が、ありきたりな桜を書くかな？

T	ありきたりではダメなの？
C	読む人が、そんなの分かってるよって気持ちになるよ。
T	じゃあ、この作品のようにありきたりじゃないものが挙げられていたら読み手はどう思うの？
C	それがあつたかー。確かに！って思うと思う。
C	確かにそれもいいなって新発見だと思う。

各季節では以下のような「評価読み」が見られた。

季節	表現	評価読み
春	あけぼの	一般的に桜が挙げられるが、読者が「確かに」と気付けるものを挙げている。
夏	闇・雨	多くの人には好まれないようなものを挙げて読者の「意外！」という気持ちを引き出している。
	蛍	多く飛ぶ蛍と一つ二つだけが飛ぶ様子の対比がある。どちらの良さも分かる。蛍が「闇」の中にあるからこそその良さを述べている。
秋	虫の音	「虫の声」と表現するよりも、「音」のほうがきれいな音の印象を与える。季節の風物詩そのものだけでなく、それと関連する音や光、気持ちなどを事例として述べている。
冬	言うべきにもあらず	清少納言は冬が一番好きなのかもしれない。 言うまでもなくということは、当時の人はみんな雪が好きだったのかもしれない。

### 翻作法：My 枕草子第一段を翻作する（春夏編）

作者の季節に対するものの見方だけでなく、作品の書きぶりに着目させたことで、清少納言の表現の工夫を生かした翻作をする児童が多く見られた。



兼好法師の意外性のある視点を自分の作品にも生かし、夏といえば思い浮かべるものに「高校バスケットボールのインターハイ」を挙げた。また、その中から、自分が風情を感じるものをさらに追記している点が評価できる。

さらに意外性を高めるために、普通嫌われるであろう「蒸し暑い体育館での試合」に興味を感じることが述べられていて、清少納言の視点を最大限自分の作品に生かしている。



夏の風物詩の瓶ラムネを、例に挙げた児童の作品。味だけでなく、音や瓶を通して見る光に興味を感じる瞬間を挙げている点が評価できる。

清少納言の夏の夜のように、瓶ラムネ自体だけでなく、その物から他の物と融合して良さが生み出されていることに気付き、作品に生かしている。

## イ 実践の考察

【評価読み】	【翻作法】
○ただ音読するだけでは考えられない、清少納言の表現の工夫を読み取ろうとする姿が見られた。	○初めての古典作品となったが、児童が意欲的に取り組むことのできる学習活動となっていた。
○文章を書くことが苦手な児童も、文章を読み深めることで、「このように書けば、読む人にとっても興味のそそられる文章になる」と感想を持ち、その後の翻作の活動につなげることができた。	○読み深めたことが生かされている作品が多く見られた。
△春夏秋冬の読みの指導に変化がなく、同じ内容の指導・活動内容になってしまった。そのため、児童の活動にメリハリがなかった。	○「をかし」を使うことをあえて助言しなかったが、「をかし」を使って作品を書く児童が多かった。
	△作成・読み合うことで終わってしまい、児童の作品から次の学びにつなげる手立てが必要であった。

### (2) 5年 徒然草 第117段「友とするに」

教科書教材だけでなく、それ以外の古文を教材化し実践した。教科書教材では、枕草子第一段が唯一のしつかりとした文章量のある古文作品となっている。それ以外は短歌や俳句が多く、古文に触れる機会が少ない。教科書にはない古典作品に触れることで、ほかの古典作品を自分で読んでみる態度にもつながると考えた。そこで、児童にも読みやすく、当時の人のものの見方や感じ方に触れられる作品を教材とし、実践した。

#### ア 指導の実際

評価読み：兼好法師の「よい友達」「好ましくない友達」についての感じ方に触れ、その表現方法について考える  
評価読みの視点を3点とし、実践した。

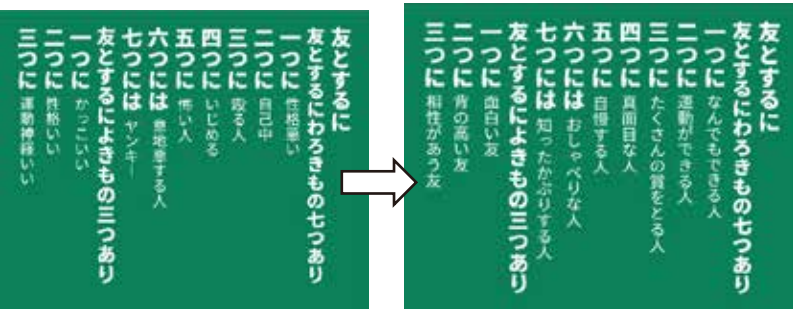
① ランダムに提示されたものを、「よき友」「わるきもの」に分類する。

② 兼好の考えに、納得できるか、そうでないか自分の考えを明確にする。

兼好の「友」に対する意外な視点に気付くことができるよう、「goodカード」と「?カード」で意思表示させた。

③ 納得できない考えに対して、「おそらく～だからよき友／わるきものなのだろう」と兼好の考えに想像する。自分の立場ではなく、兼好の立場に立って、「友」を考えることができると考え、「?カード」を貼ったものについて思考させた。

翻作法：「My 友とするに」を書く R6 実施



【児童の解説】

なんでもできる人は、できない人の気持ちを理解できないと思う。できないことがある人のほうが、できない人の気持ちを理解して寄り添ってくれると思う。運動ができる人もそうだ。足が速い人は、自分のタイムを自慢するし、試合で迷惑をかけるなど言われることだってある。まじめすぎると怒ったり注意をしたりしてくる。少しの緩みも許してくれないのは、自分は耐えられない。

イ 実践の考察

【評価読み】

- 児童が予想してから、実際の作品を読むと、「そうだよね。」「それは自信があった」「えー!」「なんでー!」などの反応が見られた。児童なりに自分の思いを持って予想し、筆者の考えに触れ、自分の考えとの相違に反応していた。
- 読み手が疑問に思う部分が明らかになり、話合いの視点が定まった。また、「good」が集まったところについても、教師が疑問を意図的に投げかけることで、「だって、～だから」と児童が自分の考えを伝える場面があった。
- 「おそらく」という考え方をさせたことで、正解を導き出すのではなく、兼好の立場に立って考えた意見が見られた。

【翻作法】

- 意外性をもって書くことの良さを確認しながら、翻作に取り組んでいた。
- △ 「意外性」を入れたいが、実際にやってみると難しいという児童が多かった。

4 成果と今後の課題

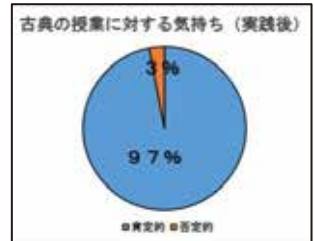
令和5年度と6年度の2年間、本研究に取り組み、そこから見えた成果は3点、課題は2点ある。

【成果1】 親しむ態度 A 「今も昔も感じ方が似ている部分があるのではないかと考えられる。」について

評価読みの実践で、筆者の表現の工夫や思いを読み取ろうとする姿が多く見られた。音読の活動に終始することなく、「評価読み」を実践したことで児童の読みが「事柄レベル」から「価値レベル・関係レベル」へと読みが深まったことが、児童の翻作作品からも分かる。

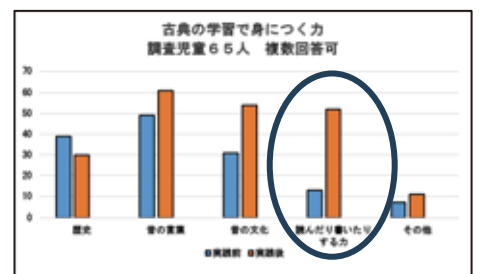
【成果2】 親しむ態度 B 「自分自身が古文の筆者となって書き換えることができるのだ」と考えられる。」について

実践後のアンケートでは、古典の授業に対する気持ちを97%の児童が肯定的に答えた。古典は今の自分たちにも通ずる部分があると気付いた姿が見られた。



【成果3】 親しむ態度 C 「筆者の書きぶりの工夫が、今の自分に生かせるのではないだろうか」と考えられる。」について

実践の前後のアンケートの「古典の授業で身につく力」で一番大きな変化があった項目は、読んだり書いたりする力であった。12人から53人に大きく変化した。これは評価読みと翻作法を組み合わせ実践したことで「このように書けば読む人にとって興味のそそられる文章になり、自分たちの表現に生かせる」と児童が感じていることが分かる。



これらの3つの成果から、翻作法と評価読みは、古典に親しむ姿の育成につながっているといえる。

【課題】

教科書教材の古典作品は随筆に限らない。短歌や俳句、漢文などの作品を通して児童に「親しむ態度」をどのように身につけさせていくかが今後の課題となる。「評価読み」「翻作法」の研究、実践をさらに重ねていきたい。

【参考・引用文献】

- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』，2009年，東洋館出版
- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』，2009年，東洋館出版
- ・ 大西道雄『学習の手引きによる国語科授業の改善』，1978年，明治図書

・首藤久義・卯月啓子『翻作法で楽しい国語』, 2004年, 東洋館出版

**75%**

R5 実践 児童作品

 <p>暑い日に苦味香る緑茶を飲むのがをかし。夏は朝早くカブトムシを捕まえに行くのををかし。夏は散歩したらたまに蝉のお○○○○かけられるのををかし。夏は運動して汗かいて息切れるのををかし。 鷹</p> <p>2023年6月16日 09:20</p>	 <p>春は、お花見。桜はをかし。桜の水でお弁当を食べると、とても美味しいのの中にも、外に出てみては涼しい。涼しい。ちよんちよんちよん。学校に着いたら、校門の扉が青銅に叩いていてをかし。涼しい季節に桜はとても良い。 鷹</p> <p>2023年6月16日 09:22</p>	 <p>夏に、せみを捕まえてようとしたら、お○○○○けられる。 鷹</p> <p>2023年6月16日 09:25</p>
 <p>夏はバスケットハイハイ売店で売っている飲み物を飲みながら、見るのををかし。蒸し暑い体育館の中で行うインターハイもをかし。始まる笛の音、終わる笛の音、また、最後の最後に響く、ボールの弾む音もをかし。 鷹</p> <p>2023年6月16日 09:25</p>	 <p>夏は夕焼けありアイス食べ「をかし」かき氷食べも「をかし」 鷹</p> <p>2023年6月16日 09:28</p>	 <p>夏は、オリンピック、金メダルを目指して、頑張る国は、をかし。勝っても、負けても最後まで全力で戦う選手は、をかし。 鷹</p> <p>2023年6月16日 09:55</p>
 <p>夏は、をかし。星は、空いっぱいいて輝くのは、をかし。星一つひとつみんなの目につくから、一つで光るのををかし。白や黄色だけでなく、赤や青に光るのものををかし。みんなで見るとをかし。一人で静かに見るのををかし。 鷹</p> <p>2023年6月16日 10:15</p>	 <p>夏は賑わラムネ。キンキンのラムネを飲んだ時、瞬間はをかし。飲んだ時のピュウという涼しい音ををかし。ラムネのからびんを太陽にすかした淡い水色の光もまたをかし。 鷹</p> <p>2023年6月16日 10:26</p>	 <p>夏の暑い日にアイスを食べた後、スッパッパしてやる気がなくなるのををかし。暑い時にクーラーをつけて部屋の中を待ちよくしてやる気がなくなるのををかし。暑い時にはプールに入って暑さを忘れて気持ちよく浴びるのををかし。 鷹</p> <p>2023年6月16日 17:24</p>
 <p>夏は梅雨。水無月の頃はさらなり。紫陽花なくも、雨の多く降り注ぎます。また、ただ霧のよみがかすかに少し降るのををかし。花などに落つるのををかし。 鷹</p> <p>2023年6月17日 20:14</p>	 <p>夏はガリガリくん。夏に冷たいガリガリくんを十個食べてゲームをしていたら気分がいい気持ちになったああをかし。 鷹</p> <p>2023年6月18日 08:18</p>	 <p>夏は、花火。夜空にきらめいて、一瞬に消え去る姿をながめるのはをかし。また、それをながめ、夜の蒸し暑さがわるしの中、さっぱりとしたスイカにかぶりつくのををかし。 鷹</p> <p>2023年6月18日 13:52</p>
<p>鷹</p> <p>2023年6月18日 18:59</p>	 <p>春はお星見。北極星を見ながら、ぶどうジュースを飲みながら母とお話しするのがをかし。キャンプしながら、北極星を見ながら寝る・のものををかし。来年もキャンプいきたいなと思うのををかし。 鷹</p> <p>2023年6月18日 19:02</p>	 <p>夏は、山、山には、緑にも木のみきは、茶色。山は、色をかき。山頂に集った遠く、涼しい風。あたりを眺められる。山頂もをかし。下りは、すべり台。山がさびしくなるのををかし。 鷹</p> <p>2023年6月18日 19:08</p>



 <p>夏は暑くて をかし。 アイスが美味しくて をかし。 プールの気持ちよくて をかし。 お祭りガヤガヤ をかし。 人がいっぱい をかし。</p> <p>児童子第一段 夏編</p> <p>6月7日 14:16</p>	 <p>夏はアイス。キンキンに冷えたアイス。暑い夏の中食べるのをかし。 味の美味しさはをかし。 だからと言って食べ過ぎはわるし。</p> <p>児童子第一段 夏編</p> <p>6月7日 14:16</p>	 <p>冬は、こたつに閉じこもるのをかし。ベットに入る時ベットが寒いのはわろし。ココアを飲む時はお菓子と一緒に飲むのがをかし。</p> <p>児童子第一段 冬編</p> <p>6月7日 14:20</p>
 <p>夏は、街が賑わって太鼓や虫の音が響り響くをかし。 また夜の屋台の光をかし。 かがいるのは、わろし。</p> <p>児童子第一段 夏編</p> <p>6月7日 14:25</p>	 <p>春は、新学期、入学式をかし。 入学して新たな出会いもをかし。 ともだちをたくさん作るのも一生のともだちをつくるのををかし。</p> <p>児童子第二段 春編</p> <p>6月7日 14:25</p>	 <p>夏は田舎上がりキンキンに冷えたアイス。涼風を吹かせるのををかし。 涼風の前に顔をやると思がしにくくなるのでわろし。</p> <p>児童子第一段 夏編</p> <p>6月7日 14:28</p>
 <p>秋は短い。すぐに空が暗くなるのがわろし。 でも暗くなるのが早くなるけど涼しくなるのがをかし。</p> <p>児童子第一段 秋編</p> <p>6月7日 14:28</p>	 <p>夏はいつときの夏祭りがかし。昼より夜、人々がいきいきしているのををかし。 こんなに楽しいものを一日しかやらないのををかし。 自分でやちなどをやるのもまたをかし。</p> <p>児童子第一段 夏編</p> <p>6月7日 14:28</p>	 <p>春は風。 寒い冬の後のスッキリした風をかし。 風を楽しんだ後に家でゴロゴロ過ごすのををかし。 風を楽しみながらご飯を食べるのををかし。 ただ家の扇風機やクーラーの風を楽しむのはわろし。</p> <p>児童子第一段 春編</p> <p>6月7日 14:28</p>
 <p>夏は、風鈴。風がふくと綺麗な音色がなるのがをかし。 綺麗なのがをかし。割れると、わろし。</p> <p>児童子第一段 夏編</p> <p>6月7日 14:29</p>	 <p>秋は、虫。 虫が鳴いているのををかし。 一匹しかいないでもよく目立つのがをかし。 たくさん虫がいっせいに泣くのををかし。 夜に聞くとてもよく聞こえるのををかし。</p> <p>児童子第一段 秋編</p> <p>6月7日 14:29</p>	 <p>夏は海。 キラキラ光りたる水面上、飛び込むをかし。 海の中から魚を見るのををかし。 また、一匹の綺麗な魚を見るのををかし。 ビーチに寝転がり波の音を聞くのををかし。 ただ、日焼けするのはわろし。 スイカ割りをするのををかし。 ただ、失敗したらわろし。</p> <p>児童子第一段 夏編</p> <p>6月7日 14:30</p>
 <p>秋は、紅葉。 綺麗なオレンジ色の葉がゆっくりに落ちていくところを見るのををかし。 紅葉の音、食欲の音、色々な秋を満喫するのををかし。 本の読み過ぎは、眠くなる、目が悪くなるのでわろし。 でも夜に読んだら眠くなるのををかし。</p> <p>児童子第一段 秋編</p> <p>6月7日 14:30</p>	 <p>秋は、もみじがきれいでをかし。 気温が丁度良くてをかし。 山登りが出来てをかし。 山のちようじようで食べるにきりは、をかし。</p> <p>児童子第一段 秋編</p> <p>6月7日 14:30</p>	 <p>夏はプール。プールの上がりは飲み物を飲んでゆっくりするのををかし。 温泉上がりに牛乳を飲んで息を整えるのををかし。</p> <p>児童子第一段 夏編</p> <p>6月7日 14:31</p>





【資料2】 実践1の翻作作品の分析 (R5 対象児童30人, R6 対象児童29人)

児童翻作の分析

	意外性	対比表現	事象 →音・味・視覚	当時の言語の 使用
1	○		○	○
2				○
3				
4	○		○	○
5				○
6	○	○		○
7	○	○	○	○
8	○		○	○
9		○		○
10	○	○	○	○
11	○	○		○
12	○		○	○
13	○			○
14	○		○	○
15				
16	○		○	○
17	○			○
18	○	○		○
19	○	○		○
20	○			○
21	○	○		○
22	○			○
23	○	○		○
24	○	○		○
25	○			○
26	○		○	○
27	○			○
28	○			○
29		○	○	○
30	○	○	○	○
31	○			○
32	○	○	○	○
33	○			○
34	○	○		○
35	○	○		○
36	○			○

37			○	○
38	○	○		○
39	○	○		○
40	○		○	○
41	○	○	○	○
42		○	○	○
43				○
44				○
45	○			○
46	○	○	○	○
47	○		○	○
48	○	○		○
49	○		○	○
50	○	○		○
51	○			○
52	○			○
53	○		○	○
54	○	○		○
55	○	○		○
56				○
57	○			○
58	○		○	○
59		○	○	○
合計	47	25	22	57

第5学年 国語科学習指導案（略案）

日時 6年6月21日（金）5校時  
 授業者 新津第一小学校 山際 華穂

1 単元名

古典に親しもう 『徒然草』117段「友とするに」

2 本時のねらい

兼好法師の好ましくない友達・よい友達の考えについて、『徒然草』117段「友とするに」を読み、兼好の考えについて自分と比較したり、「おそらく～だろう」と考えたりすることを通して、兼好の表現の工夫を捉えることができる。

3. 本時の展開（本時：3時間目／全4時間）

時間	働き掛け	予想される子どもの反応	■：評価 ○：留意点
	1 前時に作ったみんなの「友とするに」を思い出してみましよう。	C みんなで「あるある」って話した。 C 同じ考えの人がたくさんいました。 C 友達の考えに共感できました。	○兼好の友への感じ方の意外性に気付くために、前時までの児童作の「友とするに」を提示する。 ○児童の作品に共感性が高いことを実感させるために、友達の作品に「共感できる」かどうかを問う。
	2 まず、兼好の友とするにを見ていく前に、「よし」と「わろし」の違いについて確認しましょう。  3 兼好と皆さんの「友とするに」は一緒だと思いますか？	C 「よし」が最高レベルなら、今の言葉でいうと親友だ。 C ベストフレンドでもあるね。 C 「わろし」は、嫌いではないね。 C あんまり友達にするにはよくないって感じだね。 C 同じ考えの部分がありそう。 C 書くことのプロって調べたから、違う感じ方があると思う。	○「よし」は最高レベルであること、「わろし」は嫌いではなく好ましくないということを説明する。  ○兼好の意外性を実感を伴って感じられるように、10この友の例を「よし」と「わろし」に分類させる。 ○移動させたり、並び替えたりするためにロイロノートを使用する。
	4 兼好の挙げた例はこの10個です。まず、「よき」と「わろし」に分けてみましょう。  5 実際の「友とするに」を確認してみんなの考えの答え合わせをしてみましよう。	C わろしが7つもあるかな？ C これはよき友に入れたいけれどもう3つよき友に入れてしまった。 C これはどっちに分類されるんだろう。 C 予想と違った！ C 予想どうりだ。でも	○自分の予想との共通点や違いが分かるように、自分の予想したカードと比較しながら教師の範読を聞くように促す。 ○視覚的に確認できるように。友の例のカードを範読しながら黒板に示す。 ○多くの読者が納得できる例や多くの読者が意外に感じる例が視覚的に捉えられるよう、goodカードと？カードを使用する。

<p>6 納得できるものに good カードを、なぜと思うものに？カードを貼ってみましょう。</p> <p>7 兼好の気持ちを「おそらく～だから」と考えてみましょう。</p> <p>8 なぜ、これらを友として挙げたのでしょうか？</p>	<p>C なんて体が強い人は「わろし」何だろう？カードにしよう。</p> <p>C ものをくれる友は確かに自分もそう思うな！</p> <p>C 体が強い人がわろしなのは、体が弱い人の気持ちがわからないからではないかな？</p> <p>C 酒を飲まない自分たちからしたら、お酒を飲める人は酔っぱらうとすこしめんどくさいよね…。</p> <p>C 意外な考えがあると、読んでいておもしろい。</p> <p>C ほかには何だろうと続きやほかの作品も読んでみたくなる。</p>	<p>○課題に迫ることができるように、児童作の「友とするに」と原作の「友とするに」を比較させる。</p> <p>○兼好の感じ方に迫ることができるように、納得できる理由を話し合わせる。</p> <p>○さらに兼好の感じ方に迫ることができると、疑問に思った例については「おそらく～だから」と考えさせる。</p> <p>■ 兼好の友に関する感じ方について、自分と比較しながら、考えている。</p> <p>○課題に迫ることができるよう、読者が疑問に思うものを挙げるよさを問う。</p>
<p>まとめ 読み手が意外に思う例を挙げて、読み手を引き付けている。</p>		
<p>9 今日の学習を振り返りましょう。</p>	<p>C 自分が最初につくった「友とするに」とは全然違った。</p> <p>C すぐに読み手が納得する友達だけではない。</p> <p>C 読み手を意識してもう一度書いてみたい。</p>	<p>○ 何を書いたらいいかわからない児童のために、ふりかえりのポイントを提示する。</p> <p>①自分の作品と兼好の作品の同じ所や違うところ。</p> <p>②兼好の作品から自分の「友とするに」に生かしたいところ。</p> <p>③今日の学びを生かして、自分の「友とするに」を書いてみましょう。</p> <p>■ 兼好の作品から、学習したことを書き手の工夫に触れて記述している。</p>

〈板書計画〉

**古典に親しもう**

自分たちの友とするに

- ・あるある
- ・全部納得！

**課題**

自分たちと兼好の「友とするに」の違いは何だろう。

友とするにわろきもの 七つあり。

一つに 高く、やんごとなき人

二つに 若き人

三つに 病なく、身強き人

四つに 酒を好む人

五つに たけく、勇める兵

六つに 虚言する人

七つに 欲深き人

ともとするに わろきもの三つあり。

一つに ものくるる友

二つに 医師人

三つに 知恵ある友

◎なぜこの友？

- ・変わった感じ方↓読者をひきつける
- ・新たな見方↓読者の新しい発見

まとめ

相手が意外に思う例を挙げて、読み手を引き付けている。

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 甘える人  
二つに 優しい人  
三つに しつこい人  
四つに 呼びすけるひと  
五つに よく喧嘩するけど仲良しの人  
六つには 普通の人  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに  
二つに  
三つに

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに うるさすぎる  
二つに 自分勝手  
三つに 思慮深  
四つに だらしない  
五つに 信用がない  
六つには 差別する  
七つには 礼儀がなっていない  
友とするによきもの三つあり  
一つに 面白い  
二つに 優しい  
三つに 行動力が高い

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに いじめる  
二つに 悪口言っ  
三つに 暴力振るう  
四つに  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 優しい  
二つに 気が合う  
三つに (遊びに) 付き合ってくれる

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに マイペースな人  
二つに あおる人  
三つに なんでも一掃にしてくる人  
四つに ついてくる人  
五つに しつこい人  
六つには 陰で悪口を言う人  
七つには ぶりっ子な人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 常に人を思っている人  
二つに 気が合う人  
三つに 裏表が無い人

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 信用のない人  
二つに だらしない人  
三つに 教養のない人  
四つに いじめる人  
五つに 心の狭い人  
六つには かっこつけている人  
七つには 変に自立とうとしている人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 信用のある人  
二つに 教養のある人  
三つに 力になってくれる人

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに うるさすぎる  
二つに 自分勝手  
三つに 思慮深  
四つに だらしない  
五つに 信用がない  
六つには 差別する  
七つには 礼儀がなっていない  
友とするによきもの三つあり  
一つに 面白い  
二つに 優しい  
三つに 行動力が高い

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 話が噛み合わない人  
二つに  
三つに  
四つに  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 柔軟が上手い人  
二つに  
三つに

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 金を借りる人  
二つに からかう人  
三つに 自慢する人  
四つに オタクニートな人  
五つに メンヘラな人  
六つには サイコパスな人  
七つには 性格が悪い人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 思いやりがある人  
二つに 別が合う人 (性格が似ている人)  
三つに よく喋る人

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 怖い  
二つに 脅す  
三つに 助けない  
四つに  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 優しい  
二つに 助ける  
三つに 人柄が良い

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 自分だけが知っていると思っ  
二つに 自分勝手  
三つに しつこい  
四つに  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 気がきく  
二つに さよふりよくしてくれる  
三つに

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 性格悪い  
二つに 自己中  
三つに 殴る人  
四つに いじめる  
五つに 怖い人  
六つには 意地張る人  
七つには ヤンキー  
友とするによきもの三つあり  
一つに かっこいい  
二つに 性格いい  
三つに 運動神経いい

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 人の悪口を山言う人  
二つに 暴力を振るう人  
三つに 差別する人  
四つに 殺そうとしてくる人  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 助けてくれる人  
二つに いつも明るく笑顔な人  
三つに 話が合う人

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 暴力的  
二つに しつこ  
三つに うねう  
四つに 物を奪う  
五つに バカにする  
六つには 話を聞かない  
七つには 自己中心的  
友とするによきもの三つあり  
一つに 優しい  
二つに 人によって態度を変えない  
三つに 一緒にいて楽しい

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 自分勝手  
二つに うるさいしつこい  
三つに 暴力  
四つに 体をさわってくるわきなど  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 思いやりがある  
二つに 気が合う  
三つに 話発

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 自分かって  
二つに いじわる  
三つに 心が狭い  
四つに すぐ怒る  
五つに 自慢する  
六つには 性格が悪い  
七つには マイペース  
友とするによきもの三つあり  
一つに やさしい  
二つに おもしろい  
三つに 楽しい

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 自慢する人  
二つに  
三つに えらい人ぶってる人  
四つに 性格が悪い人  
五つに かげ口を、いう人  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 優しい人  
二つに  
三つに

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 悪い人  
二つに 火遊びする人  
三つに  
四つに  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 優しい人  
二つに 楽しい人  
三つに 分かるうとしてくれる人

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 面白くない  
二つに 面白くない  
三つに 面白くない  
四つに 面白くない  
五つに 面白くない  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 優しい人  
二つに 面白い人  
三つに 一緒にいて楽しい人

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 自分勝手  
二つに 性格悪い人  
三つに 暴力振る人  
四つに 自慢する人  
五つに 束縛激しい人  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 性格いい人  
二つに 一緒にいて楽しい人  
三つに ノリいい人

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに しつこい  
二つに 自分に気を使ひすぎる  
三つに 強引  
四つに 気持ちに行動をまかせず  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 気が合う  
二つに キンチャウとちから時に相に添うかけられる  
三つに 隣にいる

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 甘やかせる人  
二つに 甘やかせる人  
三つに しつこい人  
四つに かわいこぶてる人  
五つに 人の立場になれない人  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 面白い人  
二つに 優しい人  
三つに 明るい人

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 貸した金を返さない人  
二つに 小さい子に優しくない人  
三つに 自分の妹に優しくない人  
四つに 殺しかがってくる人  
五つに 親を殺す人  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに  
二つに  
三つに

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに しつこい人  
二つに 悪口を言う人  
三つに 自慢してくる人  
四つに 暴力を振る人  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに やさしい人  
二つに 楽しい人  
三つに

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに しつこい者  
二つに 上から目線者  
三つに 強要、強引な者  
四つに 嘘はきける者  
五つに いばる者  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 気が合う者  
二つに 優しく接してくれる者  
三つに 助けてくれる者

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 嘘つき  
二つに しつこい  
三つに 自分かって  
四つに 気が合わない  
五つに 上から目線  
六つには 短気  
七つには 空気を読めないやつ  
友とするによきもの三つあり  
一つに 気が合う人  
二つに おもしろいひと  
三つに 優しいひと

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに しつこい  
二つに うるさい  
三つに 暴力をふる人  
四つに おどす人  
五つに 悪口をゆう人  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 優しい人  
二つに 思いやりの人  
三つに 一生懸命な人

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 嘘つき  
二つに 自暴自棄過剰  
三つに 短気  
四つに 上から目線の人  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 優しい  
二つに 助けてくれる人  
三つに 自分勝手なこう行動をしない

友とするに  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 悪  
二つに  
三つに  
四つに  
五つに  
六つには  
七つには  
友とするによきもの三つあり  
一つに 告白  
二つに 言葉  
三つに 笑

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 優しい人  
 一つに 褒める人  
 一つに 自慢する人  
 一つに 嘘をつく人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 普通の友  
 一つに 人のことを考えられる友  
 一つに その場にあった行動ができる友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 落ち着いた人  
 一つに 気持ちの強い人  
 一つに 自分中心な人  
 一つに 自慢話をする人  
 一つに 虚言する人  
 一つに 金持ちな人  
 一つに 偉い人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 面白い友  
 一つに 髯がしい友  
 一つに 元気な友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 遅い人  
 一つに 行動が読めない人  
 一つに 心が読めない人  
 一つに ナルシストな人  
 一つに 気持ちの強い人  
 一つに かねもちな人  
 一つに 嘘をつく人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 愉快な友  
 一つに 頼もしい友  
 一つに 頭の良い友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 謙遜する人  
 一つに 挨拶の好きな人  
 一つに マイペースな人  
 一つに 自慢する人  
 一つに 自分勝手な人  
 一つに うそをつく人  
 一つに つめたい人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 腹を割ってはなせる友  
 一つに 趣味のあつ友  
 一つに 人あたりのいい友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 健康な人  
 一つに とてもうるさい人  
 一つに 注意をする人  
 一つに 好き勝手な人  
 一つに よくばりな人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 物くれる友  
 一つに 優しい友  
 一つに 人の気持ちが分かる友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 正直な人  
 一つに 金持ちな人  
 一つに 安心する人  
 一つに 話をそらす人  
 一つに 運動できない人  
 一つに 行動がおそい人  
 一つに 笑わせようとする人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに はやい友  
 一つに 幼い友  
 一つに 心が読めない友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 年上の人  
 一つに よくしゃべる人  
 一つに 静かな人  
 一つに 相談してくる人  
 一つに 褒める人  
 一つに おしゃれ好きな人  
 一つに 虚言する人  
 友とするに楽しき友三つあり  
 一つに 笑顔の友  
 一つに 親切な友  
 一つに 顔が広い友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 頭がいい人  
 一つに 年寄り  
 一つに 頭がいい人  
 一つに ゲームを好む人  
 一つに 漫画を好む人  
 一つに 八方美人な人  
 一つに うるさい人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 助けてくれる友  
 一つに 性格があつ友  
 一つに 協力してくれる友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 静かな人  
 一つに きれいな人  
 一つに 正直な人  
 一つに 真面目な人  
 一つに クールな人  
 一つに 自己中心的な人  
 一つに 約束破る人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 面白い友  
 一つに 優しい友  
 一つに 一緒にいて安心できる友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに なんでもできる人  
 一つに 偉い人  
 一つに 素早く行動できる人  
 一つに 冷たい人  
 一つに 自慢する人  
 一つに 虚言する人  
 一つに 馬鹿にする人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 友達思いな友  
 一つに 気付ける友  
 一つに 賢い友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに なんでもできる人  
 一つに 運動ができる人  
 一つに たくさんの首をとる人  
 一つに 真面目な人  
 一つに 自慢する人  
 一つに おしゃべりな人  
 一つに 知ったかぶりする人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 面白い友  
 一つに 背の高い友  
 一つに 相性があつ友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 正義感強き人  
 一つに 自分と似ている人  
 一つに なんでもできる人  
 一つに 人のせいにする人  
 一つに 嘘をつく人  
 一つに 騒ぐ人  
 一つに 自慢する人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 考えて行動する友  
 一つに 叱ってくれる友  
 一つに 話聞いてくれる友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 自分の考えをもっている人  
 一つに 自分が高い人  
 一つに 自分のごときか思わない人  
 一つに 空気が読めない人  
 一つに 見下す人  
 一つに 騒がしい人  
 一つに 嘘をつく人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 注意する友  
 一つに 助けてくれる友  
 一つに 滑舌のよい友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに 想像豊かな人  
 一つに すっとニコニコしている人  
 一つに 派手な人  
 一つに 態度が変わる人  
 一つに 心が広い人  
 一つに 冷たい人  
 一つに 元気な人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 静かな友  
 一つに 優しい友

**友とするに**  
 友とするにわるきもの七つあり  
 一つに おとなしい人  
 一つに 正義感の強い人  
 一つに 話が聞き取りにくい人  
 一つに 空気がよめない人  
 一つに 奇声発する人  
 一つに うるさい人  
 一つに 元気な人  
 友とするによきもの三つあり  
 一つに 金持ちな友  
 一つに 気が合う友  
 一つに やさしい友



**友友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 万能な人  
二つに 金ある人  
三つに 調子にのる人  
四つに 騒がしい人  
五つに ずうずうしい人  
六つには 逆ギレする人  
七つには 友をばかにする人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 気が合う友  
二つに 本音打ち明けられる友  
三つに 人を助ける友

**友友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 時間を気にする人  
二つに やさしい人  
三つに とても静かな人  
四つに 自分が強いとアピールする人  
五つに 欲深き人  
六つには ペンを集める人  
七つには 嘘をつく人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 酒を好む友  
二つに 物くるる友  
三つに プロレスファンの友

**友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに なんでもできる人  
二つに 偉い人  
三つに 甚早く行動する人  
四つに 冷たい人  
五つに 自慢する人  
六つには 虚言する人  
七つには 物を盗む人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 僕を思ってくれる友  
二つに 気付いてくれる友  
三つに 熱強のライバル

**友友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 話をそらす人  
二つに 正直な人  
三つに 金持ちな人  
四つに 安全な人  
五つに 運動できない人  
六つには おそい人  
七つには 笑いの取れない人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 足の速い友  
二つに 面白い友  
三つに 心が読めない友

**友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 謙遜する人  
二つに 掃除の好き人  
三つに マイペースな人  
四つに 自慢する人  
五つに 自分勝手な人  
六つには うそつく人  
七つには つめたい人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 腰を割ってはなせる友  
二つに 趣味のあう友  
三つに 人あたりのいい友

**友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 正直な人  
二つに いつも笑顔な人  
三つに 女子力高い人  
四つに 暇な人  
五つに 語る人  
六つには 暴力的な人  
七つには 自慢する人  
友とするによきもの三つあり  
一つに ギャップのある友  
二つに ツッコミする友  
三つに 性格のいい友

**友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 親切な人  
二つに 身分高き人  
三つに 自分中心に生きている人  
四つに 自分勝手をしている人  
五つには はっきりしない人  
六つには 自分中心な人  
七つには 毒舌な人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 驚かしてくれる友  
二つに 積極的な友  
三つに 気持ちを分かってくれる友

**友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 金がある人  
二つに なんでもできる人  
三つに 顔がよい人  
四つに 口だけの人  
五つに 真面目すぎる人  
六つには 嘘をつく人  
七つには いじわるな人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 物くるる友  
二つに 指知りな友  
三つに 知恵ある友

**友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに なんでも前向きな人  
二つに なんでもできる人  
三つに すぐに騒ぐ人  
四つに 人のせいにする人  
五つに 嘘をつく人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 努力する友  
二つに 助けてくれる友  
三つに 考えて行動する友

**友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに しっかり者の人  
二つに 空気の読める人  
三つに きれいな人  
四つに 静かな人  
五つに こわい人  
六つには 自分中心な人  
七つには 攻撃する人  
友とするによきもの三つあり  
一つに たくさん食べる友  
二つに 優しい友  
三つに 面白い友

**友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 優しい人  
二つに 逆切れする人  
三つに 自慢する人  
四つに 虚言する人  
五つに インドアな人  
六つには 罪を犯す人  
七つには 怒る人  
友とするによきもの三つあり  
一つに グルメな友  
二つに 健康な友  
三つに 元気な友

**友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 静かな人  
二つに 自慢する人  
三つに 下品な人  
四つに 独り占めする人  
五つに 暴走する人  
六つには 叫ぶ人  
七つには 暴力する人  
友とするによきもの三つあり  
一つに 空気を読める友  
二つに おもしろき友  
三つに 優しき心をもつ友

**友とするに**  
友とするにわるきもの七つあり  
一つに 背が高い人  
二つに 美人な人  
三つに 頭がいい人  
四つに 金持ちの人  
五つに 強気な人  
六つには 自慢する人  
七つには 不潔な人  
友とするによきもの三つあり  
一つに やさしい友  
二つに 遊べる友  
三つに 気が合う友